

しば子先生の

ミニミニ芝生教室

生徒：だいぶ暑くなってきましたけど、やっぱり暑いときは人間も芝生も水浴びがしたくなってしまいますね・・・

先生：人間は汗をかいて体温調節するけど芝生も葉からの蒸散量を増やして気化熱で葉の温度を下げようとがんばってるわね・・・

生徒：ということはやっぱり水が一番大切だからどんどん散水したほうがいいんですよね・・・

先生：しば代ちゃん、人間が水風呂とかプールに入るような感覚で散水量を増やしてしまっは大変危険だよ・・・

生徒：えっ散水が危険なんですか？

先生：そうよ、過剰な散水によってさまざまな障害が発生して芝生の生育を危険な状態にしてしまうのよ・・・

生徒：ええ～お客さんがいなければ一日中散水をしてあげて、土壤温度や地表面の温度を下げれば芝生が元気になると考えていました・・・

先生：しば代ちゃん、そんなことしたら芝生が枯れてしまうわよ・・・芝生は水風呂には入れないわ・・・

生徒：どうしてなんですか先生？じゃあどうすればいいんですか？

先生：そうね、それを理解するには土壤の温度と水分量の関係、芝生の根の成長の関係を理解しないとね・・・芝生が葉の温度を下げるために土壤水分をどんどん根から吸い上げているわね、でも過剰に散水すると根の育成に必要な土壤中の空气がなくなってしまっ根がだめになってしまうのよ・・・

生徒：でもどんどん吸い上げているわけだからどんどん散水しないと・・・

先生：心配ないわ、必要十分な土壤中の水分があれば数日分程度の水分は十分にあるから・・・

生徒：必要十分な量って・・・

先生：あらそれは基本中の基本よ・・・土壤の50%は固体の部分、つまり砂や土ね、残りの50%が空間、つまり

第2回 土壤の水分？



砂や土壤粒子の隙間ね・・・そしてその空間の半分、つまり全体の25%が水で満たされて、残りの25%が空气として残っているのが正しい土壤の水分バランス・・・一般的に10%～25%の間で土壤水分量を維持すれば十分ね・・・

生徒：そういえば前に習いました・・・忘れてた・・・でも先生、土壤の水分量は見てもわからないですよ・・・

先生：そうよ、だから『土壤水分計』が大切なのよ・・・どんなベテランでも土壤の水分量を見ただけでわかる人なんていないわよね・・・

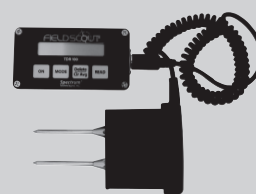
生徒：たしかに・・・

先生：土壤中の水分が満水になると、暖められた地表面の温度が地下の根域全体を暖めてしまい、しかも一度温まった水は気温が下がっても簡単に温度が下がらない・・・湯たんぼ状態ね・・・空气の層が十分にあれば空气によって保温され、地表面の熱が地下に伝わりにくくなって根域は涼しい状態で維持できるし、夜間になれば地温はすぐに下がるわ・・・真夏の日に地表面が40℃から50℃ぐらいになっても、きちんと水分と空气の量を管理すれば数センチ下は30℃以下に保持できるわ・・・それに芝生がしっかりと密度を維持して、砂に直接太陽光が当たらないようにすることも重要・・・「肥料を切って薄い芝がいい」とか言ってるけど地温も根も上がるばかり・・・第一そんなにジャブジャブ散水したら養分は流れてしまうし病気だって出てしまうし・・・芝生にとってはありがた迷惑ね・・・



Presented by 株式会社 ヒューエンタープライズ
<http://www.hugh-enterprise.co.jp>

米国スペクトラム社製土壤水分計 「フィールドスコートTDR100」



芝生管理用計測機器を手がける米国スペクトラム社の土壤水分計。手軽で簡単に土壤水分の正確な計測が可能。日々の土壤水分を確認することにより、正確な土壤水分の管理が可能となる。

定価：本体 127,000円 ターフ用ロッド 19,000円